



JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニュースレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も[公式 HP](#)で閲覧できます。

=====**第6回子育てサイエンス・カフェ報告（3月5日実施）**=====

「第6回 子育てサイエンス・カフェ」を2022年3月5日（土）10:30～12:00 Zoomにて開催しました！

タイトルは【赤ちゃんとお母さんを守る避難所をみんなでつくっています、あなたもご一緒に！ - 文京区妊産婦・乳児救護所のトリセツ】。

講師として、家政学部住居学科教授 平田京子が担当しました。

災害があいつく日本。あなたの家が壊れたら、どこで生活しますか。避難所は被災したみんなの家。でもいろんな人が多数来るので、生活をめぐってトラブルがいっぱい。特に小さなお子さんをもつご家族にとって、大地震後どう避難するかは大人以上に時間がかかるほか、用意するものもさまざま、また避難時には周囲に気をつかうことも多いと思われます。

特に赤ちゃんが泣くなど、迷惑をかけるのではないかと避難所に行くことをためらうご家族も多いのです。それらをみた文京区では、日本で最初に妊産婦・産婦と0才の赤ちゃん専用の避難所「妊産婦・乳児救護所」を計画しました。文京区長と熊本市長の絆もあり、熊本地震では実際に運用されました。



発表者の平田京子先生

日本女子大学は協定先として4大学選ばれたうちの1つとなります。避難所とは、場所と備蓄物資があればどうにかなるものではありません。どうやって暮らしやすい安心できる避難所をつくるかが問われています。この救護所はご家族の男性は入れないのですが、文京区民に限らず入ることができます。妊婦・産婦の方々がお互いに助け合っていく仕組みをつくり、あたたかい避難所をめざすことが大切で、学生ボランティアを活用することを検討し、学内ボランティアとともに活動しています。また教職員の研究の専門性を活かして、どんな支援ができるかを現在検討しています。

また具体的に妊産婦・乳児救護所とはどんなところか、場所や備蓄物資などのトリセツをご説明しました。文京区で想定している収容人数が入らないなどの面でまだまだ課題があります。歴代の学生が卒業論文で研究してきた避難所の収容カシミュレーション、運営方法、開設と必要時間、生活上での課題解決などを概説して、新型コロナで収容力が落ちている現状をどうするか、開けるまでの時間短縮と円滑な受付への検討、救護所開設キットの開発などの進展状況にふれました。備えあれば憂いなしは防災の鉄則。災害の前に、災害後の暮らしを知っておくために、東京の地震ハザードの現状や被害想定も情報提供。首都直下地震の切迫性が問われています。

いざというときに妊産婦・乳児を守ることができるかは、いつものときからみんながつながっておけるかにかかっています。みなさんもご一緒に！（文責：住居学科 平田京子）

=====**次回の子育てサイエンス・カフェは！**=====

タイトル：第7回子育てサイエンス・カフェ「子供が外遊びしやすい住宅地を考える」

日時：2022年5月11日（水）12:40～13:10

講師：家政学部住居学科教授 薬袋奈美子

コロナ禍で子供たちの遊び方が変わったと感じている方は多いのではないのでしょうか？身近な生活空間で、子供たちはどのように遊ぶのでしょうか？2021年度に行った、子供の外遊びアンケート調査の結果を振り返りながら、子供が元気に外遊びしやすい住宅地の在り方を考える素材を提供します。ぜひ、ご参加ください！！

- 対面（学内関係者・在学生） & Zoom（一般参加者）開催
※新型コロナウイルス感染症の影響により、急遽 Zoom 開催のみに変更の場合がございます。
（対面の会場：百二十年館 JWU ラーニング・コモンズかえで）
- 参加費：無料
- 主催：日本女子大学社会連携教育センター
- 申込フォーム <https://forms.office.com/r/WwTNfTJw3h>

